

第6学年 外国語活動学習実践

○学年の取り組み

①英語での指示と説明

日本語での指示と説明がないことにより、英語を聞き取ろうとする必要感を感じるように促し、意欲を高め、英語に慣れることができるようにする。



②学習の流れの統一とクラスルームイングリッシュの活用

毎回の学習の流れを統一することにより、子どもたちが安心して見通しをもって活動に取り組めるようにする。また、クラスルームイングリッシュを活用することにより、英語を繰り返し声に出す機会をつくり、安心して声を出すことができるようにする。また、少しずつ語彙の定着を図る。



③動画やスライド等のICT端末の活用

子どもたちが興味をもつであろう動画を活用し、英語に対しての意欲を高める。また、ネイティブの発音に親しむ。スライドでは、子どもたちの身近な事例を英語に置き換えて教師が話すことで、身近な出来事を英語で話すことができることを理解し、意欲を高め、理解を深める。

○子どもの姿（成果と課題）

学習の流れを統一することによって、子どもたちが次に何をやるのかを理解し、見通しと自信をもって活動に取り組むことができた。また、前時の表現を本時で繰り返して学習することにより、理解を深めることができた。

（以下、6月12日の流れ）

1. 導入 (greeting/Daily routine)
2. ウォーミングアップ (quick response /small talk/conversation/chants)
3. 本時の内容
4. まとめ (shadowing/read aloud/dictation/reflection)

Dictation では、聞きとった音を文字にして書き起こすことで、文字としての英語にも慣れることができ、語彙を増やすことにつながった。

課題としては、学習のアクティビティの中でやり取りする場面があるが、その中で自ら積極的に発信することが苦手な子が多く、特定の友だちとのコミュニケーションに偏りがちである。また、復唱する際にも、恥ずかしがったり、間違いを怖がったりして声を発することができない児童もいる。

